

第2号様式（第12条関係）

令和7年度 第2回大和市文化創造拠点等運営審議会 会議要旨

1 日時

令和7年7月25日（金）午後3時00分～午後4時40分

2 場所

文化創造拠点シリウス2階 2-2会議室

3 出席者

（1）審議会委員

6名

（2）市

ア 事務局

3名（図書・学び交流課長、図書係長ほか1名）

イ 関係者

1名（学び交流係長）

（3）指定管理者

8名（やまとみらい統括責任者、芸術文化ホール館長、大和市立図書館長、
屋内こども広場館長、生涯学習センター統括館長、防災センター所
長ほか2名）

4 傍聴人数

なし

5 議題

（1）令和6年度指定管理者評価の実施について

（2）文化創造拠点等指定管理業務の事業報告について

6 議事要旨

（1）開会

事務局から、大和市文化創造拠点等に係る指定管理者の指定等に関する条例施行規則第8条第2項に基づき、本審議会を開会することが宣言された。

(2) 議題

ア 令和6年度指定管理者評価の実施について

事務局から、令和6年度指定管理者評価の実施について説明が行われた。

イ 文化創造拠点等指定管理業務の事業報告について

【事業報告】

指定管理者から令和6年度事業報告が行われた。

【質疑応答】

委員：こちらは前年度の報告だと考えるので、今年度の内容は、また別の内容かなと。報告を聞いていてもどこの部分なのかわからないところがあった。また、昨年度実績ベースからの経年変化、前年度比を示すようなものがない。毎年ハードルが高くなっていくと思うが、そこが評価のポイントだと思う。概念的な内容説明はあるが、具体的な数値について見えにくい。

指定管理者：これについては、年明けに開催予定の審議会において、翌年度の事業計画概要をお示しする。その際に比較対象として見られるかなと。

委員：予算の立て方に出てくるところだとは思いますが、PDCAのCAまで行っていない感じがする。実績評価を通じて明確になってくる問題点を次に向けてどのように改善していくか。そこまでだと思う。それをやはり数値としてつかみたいという意図だ。計画段階での数字と同時に、決算時の経過が数値として報告書の中にあってもいいのでは。

指定管理者：先ほどの繰り返しになるが、事業計画の際に入れられたらと考える。

委員：もう1点。報告書は評価シートに合わせて作られているのではないのか。これを見るとどこを見れば評価できるのか対応している形になっていないと思う。

事務局：事業報告書の目次を見ていただくと、評価シートと同じ項目

になっている。

委員：承知した。項目はそうになっているが、評価すべき内容として分かりやすすくない。

会長：おっしゃりたいことはよく分かる。他にあれば。

委員：収支決算書の中で、修繕費の数字が入っていない施設があるが、これは必要ないからやっていないのかそれとも別の形で計上されているのか。

指定管理者：中央林間図書館と渋谷図書館は民間施設の中に入っているため計上はない。屋内こども広場は施設というより遊具の消耗が該当するため修繕費として大きなものはない。

指定管理者：文化芸術ホールは事務費に計上している。令和6年度は収入の増加分も修繕に充てた。

指定管理者：生涯学習センターも同様に、事務費に計上している。

会長：報告書37ページの「市民参加型事業」の中に「アンケートの実施と分析」と「友の会拡大に向けた活動推進」が入っているのが違和感がある。例えば、44ページの「シリウス図書委員会」のように、市民と一緒に活動するような内容が適切ではないかと考える。

指定管理者：私も疑問に思っているが、市の仕様書でそうになっているため、それに倣っている。第3期の仕様もそのようになっているため、もし今後見直す場合は第4期の仕様書からとなるかなど。

会長：もし可能であれば見直しをお願いする。他にあればどうぞ。

委員：アンケートについても質問可能か。

事務局：可能だ。

委員：芸術文化ホールのアンケートについて、取ったタイミングは。

指定管理者：年間を通じてである。25本の自主事業を行ったタイミングで、来場者にプログラムと一緒にアンケートを配布し、帰る際に回収している。よって、来場者全員の回答ではない。

委員：総評としては良い内容だ。しかし、回答数が少ないものもある。

指定管理者：回答数が少ない公演は、そもそも参加者が少ない。

委員：承知した。

委員：シリウスといえば全国的に、まず代表的な数字として年間の利用者数があると思う。初年度は300万人で常に話題になってきた。令和6年度はどうか。

指定管理者：令和6年度は292万人だ。令和7年7月時点で、1日当たりの1来館者が1万人を超える日が11日あった。一番多い日で1日あたり1万6千人の来館者があった。7月は1日平均だと9,700人近くとなっている。おそらく今年度は300万人を超えると考えている。

事務局：年間来館者数については報告書の12ページに記載がある。

委員：承知した。

会長：他にあれば。

委員：報告書17ページから記載のあるとおり、来館者について目標を果たしており、多くの利用者があることが分かり、私はこの点を高評価としたい。

委員：学習センターアンケートについて、例えば渋谷学習センターの職員の接遇について、学習室を利用する方が多く、直接職員と接する機会が少ない場合もあると思うので、取る対象を同じような利用者にしたほうが比較しやすいのではないかと感じた。

指定管理者：学習センターについては、地域特性もあるため利用者層に違いが出てしまう。その中でも、毎年行われるイベントの参加者など、経年で比較しやすいような形で実施してはいる。

指定管理者：図書館については、通常、自動貸出機による貸出しを主としているため、アンケート用紙を手渡しで行う機会はない。ただ、イベント時などに、ある程度協力いただける場合もあるが、積年の悩みではある。学習センターと利用形態が違うので単純に比較できるものでないが、経年の傾向が精査しやすい形でアンケート聴取できるよう検討していきたい。

委員：修繕費について、予算と決算で大きく差があり、建物も9年

経ってきて、そろそろ経年劣化が見られる頃ではないかと思う。そのあたりのアウトラインがどのように市で組まれているかもある。先ほど、芸術文化ホールで収入の増加分を修繕に充てているという話も出た。もちろん、利用料をとれない施設もあることから、費用を捻出できない施設もあるだろう。令和８年度の予算の組み方として、修繕費をある程度組み込むことをお考えになったらいかがだろうか。

指定管理者：それは我々も同様に考えているところがある。建物診断も実施しており、応急的に直さなければならないところについては調整させてもらっている。場合によっては市の予算化を必要とする場合もあり、そのあたりは長期的に見ていく必要がある。

委員：先ほどの委員のご発言に関連して、最初の方に私が申し上げた「修繕費の数字が入っていない」ということについて、ホールの修繕費充当も含め、本来なら修繕費の項目に計上すべきものとする。

指定管理者：指定管理者としても修繕計画を立てたいが、予算配分としてほかに優先するべきものもあり、なかなかめどがつかないのが現状だ。あとは行政とのすり合わせも必要だ。

委員：ということは、額の大きい修繕であるため計上できなかったということか。

指定管理者：開館して１０年近く経つため、どうしても大きな修繕が必要となる個所が出てくる。小さいものについては、多少やり繰りすればできるが、大きなものはそうはいかない。

事務局：補足する。シリウスについては、指定管理協定書のリスク分担表「施設・設備の損傷」において１件当たり１３０万円未満については指定管理者負担となり、それ以上については市の負担となっている。施設によっても若干異なる。地区館についてはもう少し低い額が基準となっている。

委員：報告書のホール関係事業を読んで安心したことは、学校と関係する事業があることだ。市内の小学生の中にはシリウスを

知らない子もいる。学校行事でシリウスを利用する機会があり、「シリウスが何か分かった。」という子もいた。

指定管理者：学校プランプログラムという形で毎年校長会を通じて小学校に声掛けさせていただいてる。新型コロナウイルスの時期には学校に行くのは難しいということで、ホールに行きたい、見てみたいという声があり、学校に来ていただいたりした。ミニコンサートや落語寄席など、最近はアウトリーチということで学校へ行くことも増えている。最近も福田小に大和市雅楽協会と連携し、体験講座という形で3クラス3回同じことやったが大変好評だった。このように特に若い未来を担う世代に普段触れないような文化芸術を体験してもらうことに力を入れている。

委員：アンケート結果に「不満」とある催しがあるが、自分で参加して、なぜ不満なのかと思う。私自身もこれらの公演のいくつかに参加したことがあるがどれも素晴らしかった。

指定管理者：回答済みのアンケートは毎回すべて目を通してしている。不満とする内容については、施設の作りの問題と、参加されている方が発する荷物をいじる音や携帯電話などの音への不満だ。後者はどこの文化施設でもあると思う。事前にかなり注意喚起を行っているが、ご年配の方には難しいようだ。静かにしなければならない雰囲気の時に限って音が出てしまう。

会長：他にあれば。

委員：情報公開請求が2件あったということだがこれは何か。

指定管理者：同じ市議会議員からあったものだ。1件目が委託先の業者について、2件目が屋内こども広場のトライアルについてだ。

委員：情報公開請求は、行政はよくあるが、指定管理者にあるのは珍しいことで、気になったので質問した。

会長：他になれば質疑応答を終了とする。

(3) その他

事務局より、次回の審議会予定の案内を行ったほか、次のとおり意見交換があった。

【意見交換】

会 長：全般を通じて何かあるか。

委 員：報告書が年々良くなっている。全般を通じて、いろいろなところとのコラボレーションについては継続してほしい。大企業だけでなく地区の団体とも継続して上手く関係を構築してほしい。

会 長：確かに、年々充実していつている。一方でポイントが掴みにくくもなっている気もする。

委 員：それはある。上手くまとめすぎていると感じる部分もあるが、洗練されてきていると感じるところもある。上手にまとめているところを見抜いて評価していかななくてはいけないかなと。

委 員：人件費について。人件費が高騰している昨今、このままだとサービスを縮小しかねない懸念があるがどうか。また、渋谷図書館の福利厚生費が0円となっているのはなぜか。

事 務 局：決算書については、ここに載っている数字以外については、分かりかねるため、福利厚生費については確認する。人件費や物価について予測以上に高騰する場合は場合によっては協議により変更することもあるが、原則としては5年間の指定管理料の中でのやり繰りとなる。新型コロナウイルス状況下では、変更協定を結び指定管理料の変更を行った。

委 員：現状、3パーセント程のインフレ率で、人件費はそれを上回る上昇率の予測がある。5年契約であったとしても最近2年で6パーセント近く上昇しているため、大丈夫なのか心配だ。

事 務 局：おっしゃる通りだ。ただ、今年度は5年契約の最終年度だが、契約当初はまだそれほど賃金上昇等が見込まれる情勢ではなかった。次期については、そのような上昇も含めて傾斜で指定管理料が上がるように設計されている。変更の可否については今後の推移を見ていく必要がある。

(4) 閉会

会長より、審議会の閉会が宣言された。